

人間国宝の器で一服

とうしん美術館 茶会、40人味わう

美濃焼の人間国宝が手がけた茶わんで一服を楽しむ茶会が、とうしん美濃陶芸美術館(多治見市虎渓山町)で茶が振る舞われた。

同館は東濃信用金庫創業100周年を記念して、通年で「美濃陶芸6人の人間国宝展」を開催中。関連行事として特別な茶会を企画した。参加者は40人限定で、



鈴木藏さんや加藤孝造さんの茶わんで一服を楽しむ参加者ら。多治見市虎渓山町、とうしん美濃陶芸美術館

名古屋や京都市からも応募があった。

茶わんは現在展示中の故加藤卓男さんの「ペルシア三彩胡姫文茶盃」をはじめ、鈴木藏さんの「志埜茶碗」、加藤孝造さんの「志野茶盃」など10点ほどを使用。茶席のしつらえも孝造さんの水指や、故塚本快示さんと故加藤土師萌さんの菓子器をそろえ、窯の炎をイメージした菓子でもてなした。席主は多治見市在住の裏千家茶道家、沼尻宗真さんらが務め、地元男性でつくる「かまわ庵漢塾」が協力した。6人はいずれも高い芸術性を持ちながらも用途を大切に制作してきただけに、手に心地よく収まる感じや口当たりの良さも格別な様子。参加者は感激した様子で味わった。(箕浦由美子)